

外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会 実施報告(公開版)

区分:報告

掲載日:2026年3月

内容:2025年度外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会を開催しました。

開催報告

2025年度外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会 ～地域で子どもの成長・発達によりそう支援を考えよう 2025～

<概要>

●目標:

- ・ 学習支援教室の活動を振り返り、子どもによりそった支援のための工夫・アイデアを共有する。
- ・ 子どもにとってよりよい環境を作るための具体的な実践事例や多様な支援者・支援機関等との連携事例から学ぶ。学習支援教室のボランティア活動を振り返り、子どもによりそって支援するための工夫やアイデアを共有する。
- ・ 支援者同士のつながり作り。

●日時:2026年2月12日(木)、2月19日(木) 9:30-12:00 全2回

●場所:第1回 オンライン開催(Zoom 使用)
第2回 横浜市国際交流協会 会議室

●対象:横浜市内及びその近郊で外国につながる子どもの学習支援をしている方

●講師:

第1回:小島祥美さん(東京外国語大学 多言語多文化共生センター長 准教授)

第2回:川本未央さん

(鶴見小学校所属/日本語支援拠点施設「鶴見ひまわり」日本語支援アドバイザー)

●参加者:第1回 26名、第2回 18名 (延べ 44名)



1回につき2時間半で全2回、計5時間の研修を行いました。第1回をオンライン、第2回を対面で行うことで、それぞれの開催方法の良さを生かし、参加しやすい研修を目指しました。どちらの回もグループディスカッションを交えながら、学びました。

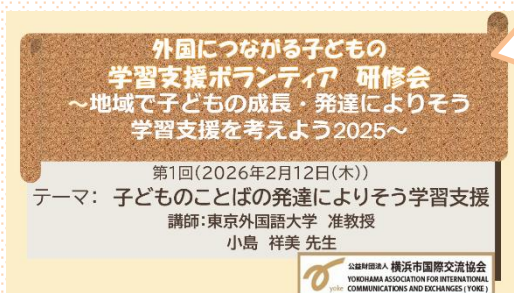
第1回研修会「子どもの成長・発達によりそう学習支援」

小島祥美さん(東京外国語大学 多言語多文化共生センター長 准教授)

オンラインで開催した第1回は、昨年4月に文部科学省より公開された「ことばの力のものさし」(「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のためのことばの発達と習得のものさし」)の開発及び「DLA」(「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための対話型アセスメント DLA」)の改訂に関わっていた小島先生に講師をお願いしました。

成長・発達をふまえ、子どもが力を発揮するための支援について、たくさんのヒントをいただきました。

*講師のお話



外国につながる子どもの
学習支援ボランティア 研修会
～地域で子どもの成長・発達によりそう
学習支援を考えよう2025～

第1回(2026年2月12日(木))
テーマ: 子どものことばの発達によりそう学習支援
講師: 東京外国語大学 准教授
小島 祥美 先生

公認メンバー 横浜市国際交流協会
YOKOHAMA ASSOCIATION FOR INTERNATIONAL
COMMUNICATIONS AND EXCHANGES (YOICE)

目の前の子どもを「日本語ができない子ども」として見るか、「日本語も母語もできる可能性のある子ども」として見るかという問いかけから、子どもの持つ全てのことばに光を当てることの大切さを教えていただきました。

「ことばの力のものさし」や改訂された DLA について、理論や内容、見方について知る貴重な機会となりました。

*グループワーク



前半では、小学生の DLA 実施ビデオを視聴し、対象児童が何を伝えたいかを検討しました。ことばの力の発達のステージと日本語の習得ステップの見立てや発達に応じた支援の方法についての解説がありました。

後半は、中学生の DLA 実施ビデオを視聴し、対象生徒の強みを生かした地域でできる支援をグループで検討しました。各グループから支援者の経験を踏まえたさまざまなアイデアを出し合い、共有しました。

参加者の声(アンケートより一部抜粋)

- 地域の支援者対象の内容になっていて、これまで十分に理解できていなかったことも、とてもよくわかりました。「ことばの力のものさし」は地域の教室でも支援に生かしていけると改めて感じました。
- 講師の方が動画などを加えてお話くださったので、分かりやすかった。事前に資料を読むことができたことも理解を助けた。
- 今まで以上に、内面(頭の中:ステージ)に目を向けたいと考えている。伝えたいことを伝えられない感情に、配慮していきたい。
- 直に先生のお話を伺える機会をいただけたことは、ボランティア活動をする者にとってたいへん励みになります。これまでの取り組みに自信を持つと共に、何気ない子どもの一言一言から成長を読み取る大切さを改めて感じました。

第2回研修会「横浜で学校と地域で共に支える支援」

川本未央さん(鶴見小学校所属/日本語支援拠点施設「鶴見ひまわり」日本語支援アドバイザー)

第2回は対面開催で、YOKE 会議室で行いました。今年度も横浜市の日本語支援アドバイザーの先生に来ていただきました。鶴見小学校の教員で日本語支援アドバイザーの川本先生には、横浜市の外国につながる児童生徒の現状や支援体制や学校での具体的な日本語指導等についてお話を伺いました。また、2回のグループワークを通して、支援体制への理解が深まり、参加者自身の支援について検討することができました。

*講師のお話



一人一人違う子どもに寄り添い、子どもが安心して学べる環境づくりを目指し、子どもが興味を持てる課題、やってみたくと思える支援が大切であることを改めて学びました。

また、横浜市の支援体制についてわかりやすく説明していただき、日本語支援拠点施設「ひまわり」、国際教室での日本語指導の紹介を通して、学習支援のヒントをたくさんいただきました。

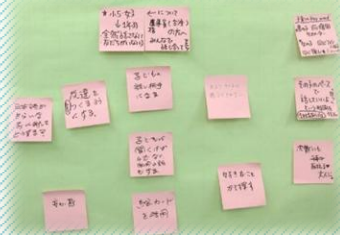
*グループディスカッション



グループディスカッションを2回行いました。

1回目は、来日2か月の小学校5年生の社会科の事例から、どのような支援ができるかをグループで話し合いました。講師からは、母語の力も活用しながら、「ひまわり」で学んだ表現を使って5年生に必要な知識を学ぶことを目指した実践が紹介されました。

2回目は、「地域の皆さんだからできること」を話し合いました。グループで付箋紙に書き出し、模造紙に貼りながら考えをまとめました。各グループの作品を見て回り、グループ間でも活発な意見交換が行われました。「子どものペースで」「子どもが好きなことを」など、子どもに寄り添い、安心して学べる環境づくりにつながる意見が多く出されました。



参加者の声(アンケートより一部抜粋)

- 気づきがたくさんあった。よいところ、できるところを認めることが大事。
- 現場の先生のお話が伺えたのと、実践例が素晴らしく、とても参考になりました。
- 自分がやってきた活動やかかわり方に取り入れることで、さらに子どもの力を生かすことができそうです。
- 現場の先生の対応や、先生の立場での悩みもわかり、地域の立ち位置が以前よりわかってきました。
- わかりやすい説明で、どんな様子で学校でやっているのか知ることができました。「ひとりを大切にする」ようにこれからがんばりたいと思いました。